

複製・転載禁止

本資料に含まれるすべての内容（文章・画像・デザインなど）の無断転載、複製、配布、改変、または二次利用を固く禁じます。本資料を使用する場合は、事前に許可を得てください。

ISO 56001 イノベーション・マネジメントシステム 2024年度 活動実績と第三者機関評価

2025.7.26 アドバンス電気工業 開発部 開発課

作成： 2025年7月26日
アドバンス電気工業(株) 開発部 開発課 笹尾起美仁

文書管理： Doc250726sa-2 2024年度 活動実績と第三者評価（2025年7月26日）

1. Introduction ISO56001 自己適合宣言と第三者機関による適合評価

背景：

2024年9月10日、イノベーション・マネジメントシステムの認証規格である ISO 56001 が発行されました。2023年7月に策定した総則『イノベーションマニフェスト』がISO 56001に適合していることを確認しました。

アドバンス電気工業株式会社は、ISO 56001の認証取得を目標に、活動を展開してまいりましたが、2025年4月現在、日本国内には当規格に対応した認証機関は存在していません。

この状況を鑑み、**アドバンス電気工業株式会社**は、弊社（第一者）および利害関係を有する組織から独立した**第三者機関による適合評価**を実施し、**自己適合宣言**をすることを決定いたしました。

第三者機関による適合評価活動について：

2023年度に引き続き、当社が構築したマネジメントシステムについて、**MOT（技術経営）教育**を推進する**名古屋工業大学 産業戦略デザインコースの教員**に共同研究の一環として適合性評価いただく機会を設けました。（アドバンス電気工業株式会社は名古屋工業大学と包括連携契約を締結しておりますが産業戦略デザインコースとは利害関係にありません。）

2. Scope イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲

対象部門：

アドバンス電気工業株式会社 開発部 開発課

対象となる事業所：

アドバンス電気工業株式会社 R&Dセンター 愛知県春日井市神屋町熊野上1139-1

アドバンス産学共創講座（名古屋工業大学内） 愛知県名古屋市昭和区御器所町

IMS年度（適合審査対象期間）：

2024年度 （2024年7月27日～2025年7月26日）

対象製品・対象事業分野：

対象製品：流体制御機器

対象事業：エレクトロニクス分野、ライフサイエンス分野の新規事業

3. Manifesto イノベーションマニフェスト

イノベーションマニフェスト：

アドバンス電気工業のイノベーション活動の方針や意図、スキームを 関係者に知らせるための文書です。

マニフェストは、組織がイノベーション・マネジメントシステムや活動を支援するための方法を体系的に記載した文書化した情報です。

ISO56001に準拠したルールブックとして機能するとともに、適合性評価の基準となる重要文書です。

アウトライン：

イノベーション・マネジメントシステムは下記で構成されています。

- ・ナレッジベースドマネジメント
- ・プロジェクトマネジメント
- ・デュアルシステム
- ・デベロップメントマネジメント
- ・プロダクションマネジメント

4. Conformity assessment 適合性評価

第一者適合性評価活動：

アドバンス電気工業 開発部 開発課 知的財産ユニットが 年1回内部監査を実施し、国際規格 ISO56001 に適合していることを「適切な適合評価活動の結果」に基づいて客観的に適合性評価します。

第三者適合性評価活動：

名古屋工業大学 産業戦略デザインコース（技術経営MOT）の教員に 年度重点課題に関連する活動について意見をいただきます。

* 2024年度の重点課題

デザイン思考を用いたワークショップによる気づき

名古屋工業大学 産業戦略デザインワークショップ 『プロジェクト ベースド ラーニング 2025』（PBL）に参加、一般学生、社会人学生とともにワークショップを実施。

5. Activities and Achievements 活動と実績

2024年度の新しい取り組みについてISO56001との関連性を下の表にまとめました。
また、内部監査によりISO56001の適合性を確認しました。

2024年度の取り組み	ISO56001 条項
ナレッジ エクスチェンジ フォーラムの運営を通じて、組織的な方向性を示し、参加者を促進するリーダーシップが発揮された	リーダーシップ（第5章）組織全体で価値創造の重要性を共有
スモールプロジェクト（コンセプト製品の開発）の計画は、ISO56001の計画要求事項に合致している	計画（第6章）イノベーション活動の計画を立案
ナレッジエクスチェンジフォーラムでの支援体制の充実が、ISO56001で求められる環境の構築に対応	支援体制（第7章）従業員の教育、効果的なコミュニケーションなどを通じて、活動を支援する枠組みを構築
SECIモデルに基づく知識創造の活動プロセスが、ISO56001のプロセス管理に適応している	活動（第8章）SECIモデルを活用して知識創造を推進し、具体的な手順を組織内に運用可能な形に整備
活動からの気づきの共有と効果評価が、ISO56001で要求されるパフォーマンス評価に該当している	パフォーマンス評価（第9章）内部監査やレビューを通じてイノベーション活動の成果を評価
新しいアイデアやコンセプトの創出を通じて、組織活動の改善を継続	改善（第10章）知識の結合や形式知化を通じて継続的にイノベーション活動をアップデート

6. Third-party opinion document 第三者機関の意見

名古屋工業大学 産業戦略デザインコース（技術経営MOT）の
講義名 産業戦略デザインワークショップⅠ 『プロジェクト ベースド ラーニング2025』（PBL）
に参加、一般学生、社会人学生とともに二か月間（約80時間）ワークショップを実施。
2025年7月26日に発表会を実施しました。
教員N先生、I先生、S先生に2024年度重点課題である『**ワークショップによる気づき**』に
ついて意見をいただきました。

ワークショップについて

デザイン思考では創発、プロトタイピング、共感、検証のプロセスが大切であり、アドバン
ス電気工業を含む5班はそのサイクルがとても多く回っていた。
没頭する時間が大切。教えていなかったが “場” が良く使われていた。
ワークショップでは全員がリーダーであり、“I” → “We” が大切。それを実践するワーク
ショップができていた。

7. Insights from the PBL workshop ワークショップからの気づき

『ワークショップ』を体験して

- ・意見を言わなければならない。学生さんは拡散・発散がうまい。
- ・質問しなければ損だと思った。“批判”に対するネガティブなイメージがなくなった。
- ・学生の皆さんの処理の速さに驚いた。アルディーノを用いたプロトタイピングが速い。
- ・教員が楽しそう。ワークショップは楽しかった。“場”を体験により理解できた。
- ・2か月の『プロジェクト ベースド ラーニング』（PBL）で成長を感じた。

『マインドセットの転換』について

既存事業や一般的なプロジェクトでは、タスクを細分化し、担当者を割り当てて管理を行う習慣があります。しかし、この方法と意識が新しいアイデアやコンセプトを創出するプロセスやワークショップでも引き継がれることで、参加者が指示を待ったり、自分の発言を控えたりする行動につながる可能性があります。そのため、イノベーション活動においては「マインドセットの転換」が重要な教育課題となることを認識しました。

8. Non-verbal evidence

